（別紙4）　　令和　6　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2292300247		
法人名	医療法人社団　弘仁会　中根クリニック		
事業所名	グループホームももの花		
所在地	富士市三ツ沢427-1		
自己評価作成日	2025.1.17	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「地域の方に信頼される医療と介護の提供」という運営理念のもと、地域の皆様が認知症介護サービスを安心して利用いただける拠点としてお役に立てるように取り組んでいます。
一人ひとりに、しっかり向き合い、共同生活介護に沿って日常生活を共に行い、ADL・QOLを維持できるケアを提供出来るよう全体で考えるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

静岡県（グループホームももの花）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である、地域の人に信頼される医療と介護の提供を基本として、スタッフ全員で理念を共有の意味も踏まえて毎朝唱和している。	医療と介護の両方でサポートいただき利用者側も安心して日々を過ごすことが出来ています。	特になし。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症にも配慮しながら、福祉展・文化祭などへの参加。地区の飲食店へご利用者様と食事に行くなど、昨年に比べ積極的に交流をすることが出来た。	積極的な交流活動を写真などで確認出来て良いと思います。 毎月のお便りで文化祭や外出について知ることが出来て安心しています。	このまま継続して頂ければと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民児協に出席させて頂いたり、地区の研修等へも参加できたが、地域の人々に向けて活かせたかと言われると疑問である。今後地域の人々を巻き込み理解を深める方法も模索していかなければと感じる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はご家族様のご協力を得るために年度初めに開催に合わせ、出席依頼をしたことにより毎回ご家族様にご出席して頂けて、運営に対しての貴重なご意見をいただくことが出来た。例年に比べ良い運営推進会議になった。	ご家族様の参加を増やせるよう工夫されていて良い事だと思います。 参加させて頂いて取り組みについて良く理解する事が出来ました。とても良い事だと思います。	継続して、より良い運営推進会議になれば良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加いただき、活動状況や課題についてお伝えしたりし協力関係が築けていた。 運営上不明な点は連絡させていただき、丁寧に教えて頂けて助かっている。	運営推進会議の場で利用状況や利用者様の様子の報告も写真付きであります。会議に出席し市との連携も上手くいっていると感じました。	継続して頂ければ安心です。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会で年4回定期的に委員会で話し合った。利用者様個々の尊厳を守るよう取り組んでいる。 法人内でも研修会も開催した。	定期的に会議も開催して下さっているようで安心。面会に行って確認しても安心している。認知症があるが見守って頂き感謝しています。	特になし。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に委員会で話し合い、虐待になる前の不適切な接遇を早期に発見し、防止するよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会・研修を開催出来ていない。職員の入れ替えも多く、周知出来ていない事が多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用についての説明を行うと共に、不安や疑問が無いか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で皆様からいただいた意見を毎月の全体会議・委員会活動などにて反映し、運営に活かしている。 玄関に毎回議事録も置き、誰でも目を通せるようにしている。	しっかりやって頂けている。	特になし。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本年度は毎月の全体会議も開催し情報を共有できる時間や職員の意見も聞けるよう取り組むことが出来た。来年度に向けてより良い方法も模索している。	職員の皆様の情報共有も実際接して出来ていると確認しました。	特になし。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の評価は定期的に実施し、管理者から代表者に報告、給与に反映されている。 法人としても人員補充などの環境整備や評価基準を明確にし職員のやりがいに結び付けていければと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量をしっかり把握し、個々の能力に合わせて対応出来ている。自己啓発の為に個人的に研修に行かせることも出来た。法人研修も開催出来ている。職員全体のスキルアップの為には質の高い外部研修も来年度は取り入れていこうと考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会議で交流・意見交換する機会がある。他事業所の管理者との交流や市議会議員や他事業所経営者と横のつながりも大事にし意見交換する機会を設けることが出来た。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階からケアマネ中心にご本人様と向き合い、困っている事や要望に耳を傾け、その都度対応できるようにしている。安心して生活できるような関係性を築けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安を解消し、求めるサービスを提供できるよう、説明し相談を受けている。お便りにて毎月日々の様子をお伝えし、ケアマネを中心にご家族様と連携をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける中で、ご本人様・ご家族様にとって今必要としている事を一番に考え、他のサービス利用が適切な場合は、説明し案内している。しっかり対応出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GHとは？というところから考え直し、暮らしを共にする者として、料理・掃除などにも一緒に取り組み、自宅の延長線として過ごせるような関係を築くように取り組み直すことが出来てきている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、写真付きのお便りを作成し情報共有出来るようにしている。面会・外出もご家族様の希望に添えるようにし、定期的にご家族様の意見も伺うように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症も配慮しながら、可能な限りこれまでの関係が維持できるよう努めている。 ご利用者様との会話の中で発信のあった場所などにもドライブしたり外出したりも出来てきている。	写真などで確認出来て有難く感じます。 親戚の人との面会も事前に連絡すれば出来ている。	特になし。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者ひとり一人のバックグラウンドをしっかり把握し、ケアプランに沿いながら、ご利用者様同士協力しながら、楽しみながら生活出来るような支援を心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後であっても関係性を継続し、相談等があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員同士の情報の共有の大事さを再認識し、ご本人様の要望や困っている事を早期に発見・改善出来るように心がけている。少しでも疑問に思う事があればカンファレンスを活用している。	誰でも情報共有出来ていて助かっております。スタッフさんが本人の事をよく分かってくださっているので本人も安心していると思います。	特になし。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのバックグラウンドやアセスメントはCMを中心に的確な情報を職員に周知出来ている。それに準じてケアに繋げることが出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活ペースをしっかり把握・共有し個々のペースに合わせ、自由に過ごせるよう努めている。残存機能はしっかり生かし、ADLの維持に努めるケアを心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様との連絡を密にとり、職員の意見も会議等で確認し、より良いケア・生活出来るよう介護計画を作成している。	特になし。	特になし。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化に敏感に気づけるように職員に周知している。情報の共有も前年度に比べ意識出来てきている。個別記録の充実に関しても職員間で意見交換が出来てきている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様・ご家族様のニーズに対して柔軟に対応出来ている。既存したサービス以外に急な希望などが出てきても支援出来ている施設であると思う。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様の内的資源を把握し、エンパワメントアプローチ・自立支援を考えたプランを考えている。地域ボランティアや地域行事への参加・ご家族様との繋がりも大事にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様とご家族様の意向を確認し、必要な医療が受けられるような関係作りをしている。	持病に対する受診他歯の治療も対応して頂けた。体調が悪くなってもすぐ対応して頂き感謝しております。	以前ケガをしたことがあった。色々対応いただき感謝しているが、もう少し早い段階での判断も必要な時もあると思う。ケガをすることで認知症も進行する。今後について協議して頂ければと思うところもある。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との情報共有がスムーズに行えるようにし、随時必要な看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	CMを中心に病院関係者とのやり取りを行い、早期退院とその後の対応を確認出来るよう努めている。 定期的に病院にも訪問し情報共有の場を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で以降の確認を行っている。また状態の変化に合わせ、ご家族様・医師も含め再確認し方針を決めている。 看取りについて職員間でも勉強し、チームとして取り組めるように日頃から利用者様にしっかり寄り添えるようにしている。	家族と話し合いを行い方針を共有し取り組んでいると思います。	特になし。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が急変時や事故の報告、相談の手順を把握するよう努めている。定期的な訓練や対応研修が出来ていなく、実践力に欠けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPの整備も進め、法人内でも見直し等進めている。訓練も夜間想定も含め2回実施している。地域連携という点では色々話し合い整備していく必要がある。	BCPを基に夜間想定の訓練も実施していることは大切だと思います。	BCPを整備し、大規模災害時は家族としてどのように動けば良いか教えて頂きたい。引き取りが必要なのか？連絡手段等。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を守った接遇を行うよう周知している。不適切な対応と感じた場合は、早期に話し合いっている。接遇に関して職員一人ひとりが常に意識していく事が重要。	面会時にスタッフから様子も伺えたりする。良く見て頂いているのがよく分かります。	特になし。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる場面を出来るだけ多く持てるよう指導している。指導不足もあり、ケアする側主導になってしまう事も見受けられる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活のペースやリズムを大事にするよう理解を促しているも、職員都合・業務都合は正直まだあるが前年度に比べて職員の意識は変わってきていると感じている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ・おしゃれ・の支援ももう少し職員が理解することが必要。洋服の自己決定・整容等にもう少し意識改善が必要。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるよう、メニューや食形態を検討している。共同生活介護(GH)らしさの特性をもっと生かし、一緒にやる。という理解が出来てきて、業務を見ていても職員の変化を感じている。	写真などで確認し、準備や片付けも一緒に行えている。刻み・トロミなど本人に合わせて対応して頂けている。楽しんで食事が出来ているのではないかと思います。	GHの基本方針に沿った食事提供をされている事はご利用者様にとっても楽しみの一つになると思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事摂取量、水分摂取量をチェックし、不足していないか確認している。変化があれば医師に相談して指示を仰いでいる。状態に合わせて食形態を変更したりしADLを維持できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員の口腔ケアを個々の状態に合わせて行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄パターンをしっかり把握し、おむつ・パットの適正使用し、出来る限りトイレで排泄できるよう、2人介助になってもトイレに座ることを継続して出来ている。	大変な作業ですが宜しくお願い致します。 排泄から排泄までの時間が短い為スタッフさんにはお世話になっております。	特になし。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因・影響について考えて対応している。飲食の工夫・時には内服薬の調整などで改善に向けてケア出来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日指定や時間が固定されている。ご本人様の気持ちを臨機応変に対応出来ていない点はある。現在は週2回の入浴で実施されている。職員と色々な方法を協議している。	入浴を楽しみにしていると伺いました。大変な作業ですが宜しくお願い致します。	特になし。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は勿論、昼寝や食後の休憩など、個々のペースで休めるようにしている。温度調節など配慮し、安眠できるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の内服薬の把握・作用等を把握し、適切に服薬できるようにしている。変更等あった場合は薬情を基に周知も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合わせた作品作り・展示や誕生日会・企画等楽しく生活できるように心掛けている。生活歴も把握するようにし、趣味・嗜好品をケアに組み込めるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症にも配慮しながら、外出企画やご本人様の希望に沿った買い物・食事なども行くことが出来てきている。職員の意識も変わってきて良い方向に向いてきている。	外出支援は家に居たら絶対に出来なかったことです。宜しくお願いします。 ご利用者様の意見に沿った外出支援が出来るように取り組まれていると感じます。	特になし。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段からお金を保持しているご利用者様はいないも、買い物企画等を立案し、ご家族の理解を得られればその際に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上、電話が可能であれば対応するようにしている。手紙のやり取りも、要望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔には意識し、色々な面において過ごしやすい環境を提供できている。今年度は特に生活感・季節感を常に感じられるよう職員が工夫・努力してくれたと感謝している。	季節を感じるイベント等をして頂き日々が楽しくなると思います。 季節が感じられる飾りなど工夫されていると感じます。	特になし。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて自由に席に座り、仲の良い方同士で話が出来るようになっている。個々に思うように過ごせるような居場所・環境が作れてきている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が居心地の良いよう、使い慣れた物や写真等を置き安心できるような工夫を心掛けている。	持ち込んでよい物を持っていける事も良い事だと思います。	特になし。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	前年度に比べ自立支援の大切さ・難しさなどを職員に伝達し、ケアに活かすようになってきている。一人ひとりの残存機能を生かした生活が送れるよう考えられるようになってきている。		

（様式２）

目標達成計画

事業所名　グループホーム　ももの花
作成日　　2025 年　4 月　1 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　　標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	40	食事を楽しむことへの支援 一人ひとりの好みを把握し食事に反映出来ていない。 ご利用者様と共に食事準備・片付けが出来ていない。	職員に GH を理解してもらう。 共に生活し、作業する大切さを根底から理解してもらう。	職員へ GH の在り方を一から研修会を開催。 手作りメニューの導入。買い物・作業など一緒に取り組むような指導を行う。 昨年より進めてきている課題である。かなり前進し具体的に動けてきている。5 月を目安に完全に手作りに変更する。	１２か月
2	45	入浴を楽しむ支援 職員都合での入浴回数・時間指定を撤廃する。それに向けて職員の意識改革が必須。	入浴方法・回数 時間設定に疑問を持ち、入浴の在り方を考え直す。	今の入浴方法が正しくないことを説明し納得してもらう。 今後、どのように入浴をすれば良いのかチームで話し合い、現在の流れを撤廃し根本から見直す。 昨年も人員的問題が大きく着手出来ていない課題である。継続して少しでも前進するように進めていく。	１２か月
3	49	災害対策 BCP の整備は行っているも、地域との連携・ご家族様との細かい決め事に関してもう少し具体的に決めていなかければいけない点がある。	有事に備えて、毎年、具体的に BCP を見直し、不安なく生活して頂けるようにしていく。	町内会長様にご協力頂き、災害時の地域との連携を具体的に明記し、合同避難訓練の定期的開催を実施する。 有事の際の施設側とご家族様がどのように対応していくのか共通理解出来るように整備していく。	１２か月

注１）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注２）項目数が足りない場合は、行を追加すること

（様式４）

サービス評価の実施と活用状況

事業所の外部評価の実施と活用状況について振り返ります。

「目標達成プラン」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活用状況についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容（↓該当するものすべてに○印）	
1	サービス評価の事前準備	○	①　運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		○	②　利用者へサービス評価について説明した
		○	③　利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした。
		○	④　運営推進会議でサービス評価を説明するとともに、どのように評価機関を選択したかについて報告した
			⑤　その他（　　）
2	自己評価の実施	○	①　自己評価を職員全員が実施した
		○	②　前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		○	③　自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		○	④　評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意思統一を図った
			⑤　その他（　　）
3	外部評価（訪問調査当日）	○	①　普段の現場を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		○	②　評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		○	③　対話から、事業所が努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
			④　その他（　　）
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	○	①　運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		○	②　利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		○	③　市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		○	④　運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
			⑤ その他（　　）
5	サービス評価の活用	○	①　職員全員で次のステップに向けて話し合い、「目標達成プラン」を作成した
		○	②　「目標達成プラン」を利用者、利用者家族や運営推進会議へ説明し、協力やモニター依頼した（する）
		○	③　「目標達成プラン」を市町へ説明し提出した（する）
		○	④　「目標達成プラン」に則り、目標を目指して取り組んだ（取り組む）
			⑤ その他（　　）